

花のワルツ



- Valse des fleurs -

Pyotr Ilyich Tchaikovsky

Casse-Noisette Op.71 1892

originally choreographed by Marius Petipa and Lev Ivanov

ピョートル・チャイコフスキー

バレエ『くるみ割り人形』は、クリスマスの前夜にクララが見た夢のお話。

クリスマスイヴのパーティの後、クララはふとプレゼントにもらったくるみ割り人形が気になって、大きなツリーのある広間に降りてきました。その時、ちょうど真夜中十二時の鐘が鳴ると、クララの体はみるみる小さくなっていきます。そこへ悪いネズミ達が押し寄せてきました。

くるみ割り人形は、兵隊人形たちと一緒にネズミと戦います。

クララも協力して、無事にネズミたちを追い払うことができました。

くるみ割り人形はお礼に、クララをお菓子の国へと招待します。

お菓子の国では金平糖の精をはじめ、色々なお菓子の妖精たちが踊ります。

そして最後に踊るのが花の妖精たち。「花のワルツ」はその音楽です。

あふれるように、こぼれるように舞う花たち。

華やかで優美なこの曲は、きつと皆さまも聞いたことがあるでしょう。

花束を見た時の、あの幸せな気持ち。そしてクリスマスの夜の不思議な魔法。

チャイコフスキーのこの「花のワルツ」には、まるで

女の子の夢がいっぱい詰まっているようです。

聖夜、お花たちも舞台袖で出番を待っています。

花束にも幸せの魔法をかけて、サンタに届けてもらいましょう。

どうぞ素敵なクリスマスをお過ごし下さい。

(バレエ音楽『くるみ割り人形』より)

花物語

